

タイトル… 珈琲ダイアリー 作家と殺し屋

タイトル 『珈琲ダイアリー』 作家と殺し屋
○登場人物 ・ 風見仁（30歳）
珈琲の移動販売（キッチンカー）で全国を旅している。飄々とした振る舞いだが、旅の目的は「夢探し」であり、色々な出来事に自ら巻き込まれにくい。暇潰しに琴子の執筆した本を読んでいる。旅のついでに格闘技を身に付けた。 ・ 彼岸花琴子（？歳） 売れっ子の女性作家。妖艶な雰囲気纏っている。狂気的な好奇心の持ち主。退屈を嫌う。執筆している本は殺し屋が主人公。殺人の脅迫文を貰っても怯えるどころか興奮気味。 ・ 寺田幸平（30歳） 殺し屋を生業にしている男。陰気で神経質。自他共に認める程地味で

印象に残りにくい見た目。琴子が書いた本の主人公が驚くほど自分と重なり焦る。「自分の手口を世間に広めない為」に琴子を殺しの標的に。仁には琴子の担当編集兼護衛と偽る。殺しの際には基本、派手な道具は使わない。

シーン二：都内広場

場所…賑やかな広場に位置する仁のキッチン
カー

描写…風見仁が珈琲を淹れている。広場には忙しそうに行き交う人々の中、静かに一杯の珈琲を楽しむ人々もいる。

会話…

- 仁：「次のお客さん、どうぞ！」
- 琴子：「こんにちは。珈琲一杯ください。」

• 仁：「かしこまりました。お客さん、お近くの方ですか？」

• 琴子：「ええ、マンションがこの近くにあるの。それにしても、いい匂いね。」

• 仁：「ありがとうございます。実は、僕、暇潰しに小説を読むのが好きで…あれ？あなた、もしかして彼岸花琴子さんですか？」

• 琴子：「そう、私とその彼岸花琴子よ。」

• 仁：「本当ですか！感激です！あなたの本、いつも読んでます！」

描写… 琴子が微笑みながら、仁の珈琲を受け取る。仁の目は興奮で輝いている。

シーン2：幸平の登場

場所… 仁のキッチンカーの前

描写… 寺田幸平が仁のキッチンカーに近づく。陰気な雰囲気を漂わせながらも、特に目立たない風貌。

会話…

• 幸平…「こんにちは、珈琲一杯いただけますか？」

• 仁…「いらっしやいませ。最近よくお見かけしますね。お仕事ですか？」

• 幸平…「ええ、彼岸花琴子さんの担当編集兼護衛をしています。彼女に脅迫文が届いているんです。なので、警戒のためにこの辺を見回っているんですよ。」

• 仁…「それは大変ですね。でも、どうして脅迫文が？」

描写… 幸平は神経質そうに周囲を見回しながら、珈琲を受け取る。

シーン③：幸平の焦り

場所：幸平のアパート

描写：幸平が自室で琴子の小説を読み返し、主人公の描写と自分自身の手口の類似に驚愕している。

モノローグ：

・ 幸平（心の声）：「こんなに詳しく…まるで俺のことを知っているかのように書かれている。もし世間にこの手口が広まれば、俺は…」

描写：幸平の顔が緊張で歪む。彼の手には琴子の小説が握られている。

シーン④：再び来店

場所：再び仁のキッチンカー

描写… 琴子が再び仁のキッチンカーに現れる。仁が心配そうに琴子を見つめる。

会話…

• 仁…「琴子さん、実は…あなたに脅迫

文が届いているそうです。」

• 琴子…「知っているわ。でも、大丈夫。

私は怖くないわ。」

• 仁…「え、怖くないんですか？」

• 琴子…「本物の殺し屋に狙われるなんて、こんなに面白いことはないわ。」

描写… 仁は冷や汗をかきながら、琴子の大胆な反応に驚愕する。

シーン5：琴子殺害計画

場所… 琴子のマンションの前

描写… 幸平が琴子を襲おうとする瞬間、仁が現れる。

会話…

• 仁…「やめろ！ 琴子さんを放せ！」

• 幸平…「くっ…！」

描写… 激しい格闘戦が繰り広げられる。仁の格闘技の腕前が光る。最終的に仁が幸平を制圧する。

会話…

• 琴子…「ありがとう、仁君。あなた、なかなかやるじゃない。」

• 仁…「いや、琴子さん。無事で良かった。でも、この人はどうするんですか？」

• 琴子…「ふふ、彼には小説のアドバイザ―兼家政婦として働いてもらおうわ。」

描写… 幸平は拘束され、琴子の元で新たな役割を担うことに。仁は再び旅に出る準備を始める。

エピソード

場所… 仁のキッチンカー

描写… 仁が再びキッチンカーで旅立つ準備をしている。琴子と幸平が見送る。

会話…

• 琴子… 「またどこかで会いましょう、仁君。」

• 仁… 「はい、また会いましょう。」

描写… 仁のキッチンカーが静かに発進し、新たな冒険へと向かう。琴子と幸平はその後ろ姿を見送りながら、互いに微笑む。

ナレーション…

・ 仁（心の声）：「こうして、僕の旅は続く。新たな出会いと冒険を求めて…。」

描写… キッチンカーが遠ざかり、物語は静かに幕を閉じる。